走れメロス (3)

太宰 治

「私は約束を守ります。私を三日間だけ許してください。妹が私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の①無二の友人だ。あれを人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまって、三日目の日暮れまで、ここに帰ってこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む、そうしてください。」

　それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そっと②ほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰ってこないに決まっている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を※磔刑に処してやるのだ。③世の中の、正直者とかいう※やつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きっと殺すぞ。ちょっと遅れて来るがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命が大事だったら、遅れて来い。④おまえの心は、わかっているぞ。」

　メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。

　竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、二年ぶりで相会うた。メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱き締めた。友と友の間は、それでよかった。セリヌンティウスは縄打たれた。メロスはすぐに出発した。初夏、満天の星である。

　メロスはその夜、一睡もせず十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは、明くる日の午前、日は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を始めていた。メロスの十六の妹も、今日は兄の代わりに羊群の番をしていた。よろめいて歩いてくる兄の、疲労困憊の姿を見つけて驚いた。

※磔刑…はりつけの刑。　やつばら…やつら。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「無二の友人」の意味を選びなさい。

ア かつての親友。
イ かけがえのない親友。
ウ 古くからの親友。

〔　　〕

(2) ――線②「ほくそ笑んだ」とあるが、「ほくそ笑む」の意味を選びなさい。

ア 小ばかにしたような態度で笑う。
イ 笑顔を浮かべ、穏やかににっこりと笑う。
ウ 物事が思い通りになったと一人ひそかに笑う。

〔　　〕

(3) ――線③「世の中の、……見せつけてやりたいものさ」とあるが、王は何を見せつけたいと考えているのか。適当なものを選びなさい。

ア 約束は守らなければならないものだということ。
イ 自分はだまされたふりをしていたのだということ。
ウ 人はやはり信じられないものなのだということ。

〔　　〕

(4) ――線④「おまえの心は、わかっているぞ」とあるが、王はメロスがどのように考えていると思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 三日目の日暮れまでに王城に帰ってこようと考えている。
イ 友人を身代わりにして、自分は助かろうと考えている。
ウ 王が願いを聞き入れることなどないだろうと考えている。

〔　　〕

(5) セリヌンティウスのメロスに対する信頼が、セリヌンティウスの行動を通して描かれている一文を探し、最初と最後の五字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

□□□□□ 〜 □□□□□

(6) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア メロスの話を聞く条件として、王はメロスに友人を人質とするよう提案した。
イ 王は、三日間だけ待ってほしいというメロスの願いを聞き入れた。
ウ メロスは、王に本心を見透かされたことが悔しく、じだんだを踏んだ。

〔　　〕